

## TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑫

### 「森保監督に学ぶ指導者の姿勢」

校長室担当より

森保 一監督が率いる、サッカー日本代表チームが、10月のワールドカップ予選でサウジアラビアに敗退したことは多くの方がご存じのことと思います。一部のマスコミ報道では、解任論まで取りざたされていました。しかし、選手からは監督への信頼の言葉しか出てきていません。森保監督に直接お会いしたことが何回かありますが、私のような見知らぬ人間に対しても、常に敬意ある姿勢で対等の立場で接してくださる方でした。人として目標とすべき、素晴らしい人間性をもたれた方であると思います。今の日本代表チームにはこの姿勢が選手全員に表れています。思いどおりにいかなくて負けたとしても、人のせいにするのではなく、自らの力不足をまず認めた上で、相手を称え、これを自らの糧とする。こんな当たり前のことの積み重ねが人間には大切なのだと感じます。

サッカーのような相手との接触が多い攻守混合型の競技では、いったんグラウンドやコート、ピッチで試合が始まると、指導者が一つ一つ指示を出して選手を動かすことはできません。試合中には個々の判断で選手がプレーできるように、普段から練習を通じて自らの考え方やチームコンセプトを選手に伝え、後は選手を信頼して送り出すことが、指導者にとって最も大きな仕事であると言えます。例をあげると、練習試合であったとしても試合ができることへの感謝の気持ち、相手チームの選手やレフリーに対するリスペクトの精神は、どのチームでも選手に対して当然伝えられています。試合では選手へ全幅の信頼をおいて送り出しますが、そこは選手も成長段階にありますから、一時的にせよ、負けたくない気持ちからプレーが前のめりとなり、意図的ともとれるファウルを犯してしまうことがあります。このようなケースでは、できれば事前に、事後であったとしても少しでも早く、選手が自分自身で気づいて、フェアプレーへ立ちかえることができるように、普段からリスペクトの精神を伝え続ける必要があります。自らの姿勢や指導方法を顧みることを繰り返します。真の指導者は常に選手を信頼し、自分自身に徹する姿を常に示し、選手はその姿から人間力を身につけ、その上で自ら知識や学びを深めて伸びていきます。

本校の子どもたちも、まだ成長段階にあります。先生方は、子どもたちや同僚、保護者、地域の皆様との信頼関係をしっかりとお持ちのこと  
と思います。特に子どもたちは、常に私たちを見ています。例えば、児童生徒が不調に陥り、パニックになった時にも、私たちがどんな言動を  
しているかを見ています。他の先生と一緒にいる時でも、声の届かないくらい距離の離れた場所でも、廊下でのすれ違いざまであっても、対応が突  
発的に求められるような心に余裕のない場面でも、ゆるぎなく周囲の人への配慮（リスペクト）を欠かさない人であるかどうかは、自然に私た  
ちの行動に表れてきます。子どもたちは、これを基に信頼やリスペクトに値する人かどうかを判断し、自分を成長させているのです。既に何度  
もお伝えしていますが、森保監督と同じく、人間としてのお手本であるという意識をもって日々人と接することが私たちの使命です。学校とは  
そういう場所です。いい学校を創りましょう、一緒に。(令和3年11月24日)

#### 本校教職員として目指す方向性（確認）

※4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める